

他チームの発表を聞いて

C4 C1251165 齋藤 峻

自分たちのチームにはない解決策を提案し、参考になったのは「オムライス班」とチーム「Variety 班」の発表でした。オムライス班の発表では酒田市は事故件数自体は多くないが、高齢者が関わる事故や死亡事故が課題であるということを指摘していました。そこで、交差点やカーブなど危険箇所を光や音で知らせる「レインボーロード」を導入し、視覚や聴覚の両面から注意を促すことで、事故防止と誰もが安心して移動できる環境づくりを目指すという内容の発表でした。光や音は昼夜や天候に応じて光量や音量を調整でき、小さい子どもや高齢者まで多くの人が分かりやすく、ユニバーサルデザインでもあるのが素晴らしいと思いました。一方で、光害や騒音、慣れによる効果低下、設置や維持コストなどの課題も存在してしまうので、その課題を解決できれば事故防止に大きく貢献できると思いました。チーム Variety 班の発表では自転車や歩行者、特に子どもの事故増加を問題として、原因に意識不足と道路環境を挙げていました。体験型の交通安全学習や地域参加型の道路点検を行い、道路環境の改善と意識改革を同時に進めることで、事故の未然防止を目指すという内容の発表でした。自分たちは環境に重点を置いていましたが、体験などを行い、意識から事故を防止していくことも大事だなと思いました。

自分たちのチームでは、問題の原因として自動車依存、公共交通機関が利用されないこと、バスなどの運転手の人手不足を考えていました。地方都市において自動車依存が進み、同時に公共交通機関の運転手不足が深刻化している背景には、人口減少と高齢化、都市構造の変化、そして交通を「個人任せ」にしてきた社会の在り方があると考えます。これらは単独の問題ではなく、相互に影響し合いながら地方の暮らしや持続可能性を脅かしています。私は、交通を単なる移動手段ではなく「地域の公共インフラ」として再定義し、需要と供給の両面から段階的に見直すことが解決の鍵だと考えます。まず、自動車依存が進んだ最大の理由は、地方都市の生活圏が広がりすぎたことにあります。郊外型の大型商業施設や住宅開発が進み、日常生活に必要な移動距離が長くなった結果、自動車なしでは生活が成り立たない構造が固定化されました。公共交通は利用者減少により路線縮小や減便が進み、さらに不便になるという悪循環に陥っています。この構造の中では、高齢者や免許を持たない人の移動手段が制限され、生活の質や地域への参加機会が失われてしまいます。一方、公共交通機関の運転手不足は、労働環境と社会的評価の低さが主な要因です。長時間労働や不規則な勤務、責任の重さに対して賃金や待遇が見合っていないため、若年層が就業を敬遠しています。加えて、人口減少により利用者が減ることで事業者の収益が悪化し、待遇改善が難しくなるという構造的問題もあります。単に「人を集める」対策だけでは、この問題は解決しません。これらの課題に対する第一の解決策は、「車を前提としない生活

圏づくり」への転換です。具体的には、医療、買い物、行政サービスなどの一定の拠点に集約し、徒歩や自転車、短距離の公共交通でアクセスできるコンパクトな都市構造を目指すべきだと考えます。すべての地域で一律に公共交通を維持するのではなく、拠点間を結ぶ交通と、拠点内で完結する生活を組みあわせることで、交通需要そのものを抑えることができます。第二に、公共交通の運営方法を柔軟に見直す必要があります。従来の定時、路線バスにこだわらず、予約制デマンド交通や乗合タクシー、スクールバスや福祉輸送との一体運用など、地域の実情に合った仕組みを導入すべきです。これにより、少ない人員でも効率的な運行が可能となり、運転手の負担軽減にもつながります。また、MaaSの導入によって、利用者が複数の移動手段を一つのサービスとして使える環境を整えることも重要です。第三に、運転手という職業の価値を社会全体で見直すことが不可欠です。公共交通の運転手は、地域住民の生活や命を支える存在であり、その役割は非常に大きいと考えます。また、自治体が関与し、賃金補助や住宅支援、資格取得支援などを行うことで、安定した職業としての魅力を高めるべきだと考えます。特に地方では、公共交通を「採算事業」ではなく「公共サービス」として位置づけ、税金を投入することへの住民理解を深める努力も必要です。さらに、中長期的には自動運転技術の活用も有効な選択肢となります。ただし、自動運転は人手不足の即効薬ではなく、導入には時間とコストがかかります。そのため、まずは限定されたエリアや時間帯で実証的に導入し、運転手の補助や夜間、過疎

地輸送などから活用を進めるべきだと考えます。技術に頼り切るのではなく、人と技術が共存する形を目指すことがあります。以上のように、地方都市における自動車依存と公共交通の人手不足は、都市構造、交通制度、働き方、そして住民意識が複雑に絡み合った問題です。解決のためには、「便利だから車に乗る」のではなく、「車に頼らなくても暮らせる地域」をつくるという発想の転換が求められます。交通を地域の未来を支える基盤と捉え、行政、事業者、住民が役割を分担しながら持続可能な仕組みを築いていくことが、地方都市の再生につながると私は考えます。